

8 三遠南信地域住民セッション

San-En-Nanshin Summit 2009 in Higashimikawa

全体会に先立ち、三遠南信地域の住民並びに住民団体及び特定非営利活動法人が集い、三遠南信地域住民セッションが開催された。ここでは、住民団体等のプラットフォームとなる「三遠南信市民連絡会」の形成に係る議論と、地域連携ビジョンの政策の基本方針に基づく4つのテーマごとの意見交換がなされた。

市民団体連携委員会委員長 原田様



第17回三遠南信サミットの住民セッションを始める。

今回は、2つ議題を用意している。1つ目は、市民団体の結集の軸として、プラットフォームの形成について議論いただき何らかの合意を得たいということである。2つ目はテーマ別意見交換会として「道」「技」「風土」「山・住」の各テーマについて意見交換を行うということである。

■ プラットフォームの形成について

市民団体連携委員会委員長 原田様

最初にプラットフォーム形成についてである。今回の住民セッションの呼びかけは市民団体連携委員会が行った。このような組織を参考にして遠州、南信州からも集まり連携し、三遠南信地域全体を網羅できる組織にしていきたい。

4、5年前になるが、このサミットの大きな軸として「行政」「経済」の2つの大きな軸に加えて「市民」の軸も必要ではないかという意見が出された。そのときに提唱されたものが、このプラットフォームである。しかし、その後なかなか進展していない。これまでの経緯について

三宅さんにまとめてもらった。三宅さんにポイントを説明していただきたい。

三遠南信アミ 三宅様

プラットフォームとは三遠南信地域の緩やかな集まりを表す。第14回(2006年)から取り組んだが、進展していない。事務局機能が不可欠だが、それは負担が大きく、担う組織がないことが課題である。



市民団体連携委員会委員長 原田様

新たなプラットフォームとして、三遠南信市民連絡会を作ることになった。しかし、具体的な動きはなく現在に至っている。年1回の集まりでは、なかなか意見が出ない。サミット以外の集まりで、気軽に意見交換して仲良くならなければ、皆のパワーをまとめることはできない。

三遠南信地域を学ぶ会 吉田様

ひとつの目的を持った組織としては、既に出来上がっているのではないかと。SENAや愛知大学の三遠南信連携センターも応援してくれている。今回も3地域の代表が集まっているが、まさにこれがプラットフォームであると思う。それぞれの地域で、仲間に呼びかけていく際に、

必要な情報を取り扱う組織としてプラットフォームがある。

合唱劇「カネト」をうたう合唱団普及委員長 清水様

20年ほど前からこの地域に目を向けており、山と海を結ぶ必要性を感じている。先日、佐久間へ行ったときに、たまたま「中央構造線を見る会」のツアーバスを見た。こうした情報を一元化し、プラットフォームで情報を共有していければ良いと思う。

田峯城縁者会 今泉様

これまでに何回か出席して、この会の必要性を感じている。このプラットフォームの傘下には芸能・歴史・産業などいろいろな分野の組織を置くことが必要である。そして、集まった情報を参加できなかった多くの団体に提供するためにも、プラットフォームの立ち上げは必要である。

三遠南信アミ 水島様

三遠南信サミットに合わせて住民セッションを行っているが、毎年1回だけでは寂しい。是非ともプラットフォームを形にしたい。山・住のグループには、都市と山里の交流を活発にやっている方に集まっていたideているが、まさにこれがプラットフォームの形であり、三遠南信地域の交流の架け橋になると思う。

三遠南信アミ 三宅様

2つの具体的な提案をさせていただきたい。市民レベルで、4つのテーマに沿ったグリーンツーリズムを企画してみてもどうか。そのツアーに私達が参加費を払って参加してはどうか。また、体験に参加する住民団体の、バス代が半額になる「三遠南信地域のツーリズムパス」の仕組みをつくってみてもどうか。

市民団体連携委員会委員長 原田様

何らかの形で進めていこうとの意見は続々と

出ているが、事務局機能と運営資金が大変大きな課題である。この大きな課題を乗り越えるために、まだ具体的な取り組みはないが、SENAの力も借りて、次回のサミットが開催されるまでに何らかの行動を起こしたい。

■ テーマ別意見交換 中間発表

道：三遠南信地域を学ぶ会 河合様

飯田線の三河川合から天竜峡まではかつては鉄道が通っていなかった。67キロメートルの鉄道をカネトが作り、飯田から豊橋までつながって皆喜んだが、かえってそれで中山間地域が疲弊しだした。

今遠山郷にお住まいの方が、地域づくり、環境づくりについてもっと泥臭い意見交換をしたいとおっしゃっていた。

道を作って、疲弊する地域を作るのではなく、その道から一歩出て、交流をしたい、地域を楽しんでもらいたいという意見があった。

技：特定非営利活動法人佐奈川の会会長 近藤様

阿南町でトマトを作っている池田さんのお話を伺っている。

風土：三遠地方民族と歴史研究会 仲井様

重点プロジェクトにある塩の道、秋葉街道をうまくPRしていくのが良い。また、奥三河は伝統芸能の宝庫で、花祭り、はねこみ、ほうか、さんぞろ祭りなどがあり、PRしていくことが大切である。塩の道についても、新城の奥に昔の伊那街道がそのまま残っており、イベントをしたらどうかという意見も出ている。南信州では限界集落が多く、NPOが空き家の田畑を代わりに耕しているという状況である。自分たちだけでは限界があるため街の人たちにPRする良い方法がないかと検討している。

山・住：三遠南信アミ 水島様

プラットフォームづくりという大きなテーマがあるが、それは目的ではなく、三遠南信地域

の素晴らしさを伝え、課題を解決するための手段である。住み続けるということと都市部との交流がテーマである。地域資源を活かして交流が始まっており、各地の特徴を知って、地域資源をきちんと情報発信することが大切である。



■ テーマ別意見交換 まとめ

道：三遠南信地域を学ぶ会 河合様

行政のお金をあてにすることなく、そこで生きるために活動をする。そのため雇用や生活の場の確保が大切である。道ができた場合、中山間地域の素敵な場所を体験してもらおうという企画を作ることが大切である。リタイアした老夫婦と一緒に歩く熊野古道のような活動をこの地域で行いたい。

技：三遠南信アミ 三宅様

私たちの暮らし、命を支える原点である農業の技を取り上げた。今日は、阿南町でトマト栽培をしている池田さんのお話を聞いた。原点は土づくりであるが、消費者の需要の多様化に対し、商品開発等に取り組んでいる。池田さんは、惜しみなく技術を提供して行って、浜松や磐田市の肥料会社もその恩恵を受けており、「農業哲学」を教えていただいた。

風土：三遠地方民族と歴史研究会 仲井様

一番問題になったのは、次回サミットが開催される飯田市を中心とした南信州地域で、いかにプラットフォームを進めていくかということである。飯田市の企画部の方や財団法人野外教育

研究財団の方から、南信州は東三河や浜松市と異なり、横の連携ができていないという意見があった。

山・住：三遠南信アミ 水島様

まず、訪ね合うことが大切である。次に、都市と中山間地域をつなげる具体的な交流企画の情報交換、必要に応じての情報発信が大切である。

プラットフォームの機能、役割については、交流の企画やイベントにおいて、地域間、団体間の連携やコーディネートが必要になる。Iターン・Uターンを推進するに当たっては、どのように生活をしていくか、収入を得るかということが大切になる。

市民団体連携委員会委員長 原田様

限界集落という言葉が使われている中で、今あるものを維持していくことが大切である。皆さんの発表の共通点は「お互いを知る」ということであった。都市部にいる人に中山間地域の状況を知らせるために情報発信していく。

今日の住民セッションでは2つの話があった。前半のほうでは、今後プラットフォームという形で次回のサミットまでに事業を行う。そのために三遠南信市民連絡会という組織について充実した事務局体制を作っていく必要がある。そこには運営資金も必要である。現在抱えている問題を SENA さんと協力していくことで何らかの道を切り開いていくという確認をいただいた。テーマ別では大事な問題をいろいろと出していた。これを午後の分科会の発表につなげていただければと思う。以上で住民セッション終了とさせていただきます。ありがとうございました。